水生生物調査　2024年　1月～6月

上瀬谷A地点・田んぼビオトープ

		1月22日(月)				2月18日(土)				3月17日(日)				4月27日(土)				5月18日(土)				6月15日(土)			
場所		A		HB		A		HB		A		HB		A		HB		A		HB		A		HB	
時刻		14:30		14:00		13:50		14:50		13:40		14:10		14::30		14:55		14:25		15:10		14:40		15:40	
気温・水温		14.1	11.1	13.0	12.4	12.5	―	10.4	9.8	19.1	16.8	20.3	18.1	24.8	18.4	22.3	19.9	28.5	19.6	23.3	21.3	26.6	18.9	24.2	21.7
PH・伝導率		6.9	172	7.0	126	―	―	7.2	186	7.1	240	7.0	167	7.0	260	7.2	187	7.0	280	6.9	181	6.9	290	6.9	210
1	ヨコエビ			○				○			◎	○			○	○			○				◎		
2	ミズムシ(ダンゴムシ型)							○			○				○										
3	ヌマエビ			○								○				◎				○				○	
4	スジエビ																								
5	ミジンコ																								
6	ザリガニ			○								○				◎				◎				○	
7	サワガニ																								
8	ミズムシ(オール型)			○				○																	
9	ハイイロゲンゴロウ																								
10	ガムシ																								
11	ヤゴ(シオカラ等)															◎				◎				○	
12	ガガンボ																								
13	サホコカゲロウ											○											○		
14	カクツツトビゲラ																								
15	ユスリカ			○				○			○	○							○				○		
16	アメンボ											○				○			○	○			○	○	
17	ヘイケボタル																								
18	カワニナ		○				○								(死骸)				(死骸)	○			○		
19	サカマキガイ											○								○				○	
20	タンスイシジミ										○								(死骸)				○		
21	マメシジミ		○				○				○								○				○		
22	プラナリア														○				○				◎		
23	ヒル										○				○								○		
24	ミミズ																								
25	イトミミズ							○																	
26	ドジョウ																								
27	クロメダカ			○																					
28	オタマジャクシ																							◎	
29	カワモズク																								
30	アオミドロ																						◎	◎	
31	その他　合計数		2	6			3	5			6	7												ギンヤンマ	
備考		A:20日間の干上りの後の昨日の降雨で、水路に水溜まりができていた。水底の泥まで掬い上げたが、生きた水生生物は小さな貝類だけで、植物の部位や種子・カワニナの殻等が捕集された。今後どんな生物が再生してくるだろうか。				A:水路はほとんど干上がっていて、少し湿り気のある土中にカワニナ・シジミ類が採集できた。TB:西側水路の流れが止まり、わずかな溜水の中に5種の生物が確認できた。干上った所にはサギ類やイタチの足跡が残っていた。				A:水路の下流側が異物で堰き止められていたため水位が高くなり、生物種数が1，2月より増えた。常に生息していたカワニナは確認できず残念である。TB:上流からの水が安定して流入し、種数がA地点より多くなった。				A:水路には少しだけ流れがあり、水面一杯にアオミドロが覆っている。岸には草が茂っていて水路には光が当たりにくい。従って水生生物も多くない。TB:安定した水位が保たれているが冬場に干上がりがあった為か、水生生物は少ない。その中でザリガニだけが多い。				A:水路は溜水の上を少しの水がオーバーフローしている。水底には泥が堆積し、水中にはアオミドロが繁殖している。堆積した土中には多くのマメシジミが生息していた。TB:水路から常に水が供給され、水位が安定し、多数のイトトンボのヤゴが生息る。成体の飛翔が楽しみである。				A:水面はほとんどアオミドロに覆われていて、僅かに水が流れている。ヨコエビやプラナリアが多く採集された。マメシジミもタンスイシジミと共に生息が確認できた。TB:イトトンボのヤゴは成体になり、その数が減少した。多くのオタマジャクシが確認できた。アマガエルだろうか、シュレーゲルか			